

JASIS NEWS

no. 41

2008/3/6

日本インテリア学会会報

■ インテリア学会長より

平成19年度を振り返って

会長 高橋鷹志（東京大学名誉教授）

小原二郎名誉会長から会長の座を引き継いで早四年が過ぎました。改めて前会長の力量・炯眼に敬服し、自分の非力さを感じる今日此頃ですが、平成元年に設立された当学会の成人式を翌年に控えた平成19年度の活動を総括したいと思います。

大会・全体活動について

文化女子大学での第16回大会の後には、開催場所は東京を離れ、沖縄・大阪を巡り、第19回大会は名古屋犬山の明治村を舞台に諸行事が行われました。私事に亘って恐縮なのですが私自身、大学院終了後、故吉武泰水先生のお勧めで名古屋工業大学に昭和43年から数年間勤務していました。その間、明治村にも何回か訪れたのですが、その折体験したのは各建物の表相やインテリアの意匠・デザインに限定されていました。しかし、今度は明治の著名建築に行動場面として接することができたことは、極めて大きな収穫であり、生涯忘れ得ぬ記憶として刻み込まれたのです。

このような素晴らしい大会運営を実行された建部謙治先生（大会委員長）、松本直司先生（実行委員長）、河田克博先生（実行副委員長）をはじめ大会役員の諸先生方に深く感謝する次第です。

見学会で訪れた「如庵」、「旧正伝院書院」を含めて和のインテリアとそこでの立居振舞の質と価値の高さに改めて感銘したのですが、参加された会員諸氏の印象は如何であったでしょうか。

更に附言すれば、明治期に世界の建築に接し、その様

式を如何に導入するかに邁進した努力の軌跡を、真近に感じることもできたのです。明治村を構想・具現化された谷口吉郎先生のことを改めて思い起しました。

卒業作品展において、詳細は教育部会の報告に譲りますが、今回から審査委員会を設置し、そこでの議論を通して優秀作品を選定することにしました。作品展示には屏風状のダンボールパネルが使われ柔道場のインテリアと見事に調和したのです。

総会時に定例化した全体研究会の「インテリア空間と家具」は第2回を迎え、「オフィスのインテリアと家具の今後」と題するシンポジウムが開催されました。大学の研究室しか体験したことのない私にとっては、新鮮な情報に接したのです。今後は小学校の場合と同じく、実際のオフィスの見学会を行うことも予定されています。執務者が長時間パソコンに向うことの多い状況のなかで、個人用事務機の改良とか、コミュニケーションスペースの在り方を再考する必要を感じました。

部会・研究活動について

事務局の西出和彦さんのお手を煩わせましたが、支部および研究部会等の構成メンバーの確認作業が進みました。今後は各部会の統廃合、あるいは新設などについてどのような手続きで進めるかについて総務委員会で素案を作成し、理事会にお諮りする予定です。

AIDIA関係では2008年1月2日に韓国のYeunsookLee会長が来日され、私と西出氏の三人で短時間、打ち合わせしました。韓国が中心になってAIDIAの国際学会誌（Special Design and Research）を発刊したいとの意向が示され、日本からも論文投稿などの協力依頼と次年度の学生ワークショップの開催要請があり、湯本長伯広報委員長にお願いし、九州を会場とすることで決着しましたが、時期等は未定です。

著作出版活動について

かねてより、インテリア工事標準仕様書委員会が進められていた「インテリア工事標準仕様書」が発刊されました。詳細は当委員会幹事の小原誠先生の報告を御参照下さい。同先生の長年の御努力に頭が下る思いです。これによって各種建築のインテリアの質の向上や環境への配慮、長寿命などの実践が加速されることが期待されます。

更にかねてより企画が進んでいた「インテリア学大系」についても関係者の間で数回にわたる編集企画会議が開かれ、検討した結果、会員から意見をお聞きするシンポジウムを開催することになり、インテリアに関するプログラム論を基軸として、内容を討議する場が設けられました。「インテリア学の根源プログラムを考える」という主題の下、2008年1月22日に日本建築学会でシンポジウムが行われたのです。建築学会・建築計画委員会との共催で、インテリア学会会員以外の方々からも意見を伺う場を設けたのです。講演者の共通した意見は、「プログラム」とは、インテリアの物理的環境の計画・デザインではなく、人びとの行動場面としての役割・機能（振舞・作法・行動規範・生き方）にも視点を広げることであるとの点で一致していました。今後は、具体的に全体の巻教や書物の体裁を含めて検討を続けることにしました。

学会運営体制等について

会員増強に関しては、新入会員は序々に増加の傾向にあり喜ばしいことですが、逆に退会者の方も一定数継続している状況です。更なる手立てを工夫する必要があるそうです。そうした状況に対して、役員数が多いことがかねてより指摘されていましたが、議論はあまり進捗しておらず今後の課題として残されています。

手元のファイルで探してみると数年前に学会の設立趣旨や活動記録などを掲載したパンフレットが二種類でできました。（その何れかは東京のAIDIA大会で配布したもののかもしれません。）共に記録は2003年迄となっており、新しく会員獲得のためにも新版を作成した方が良いと思われます。次年度大会の折、参加者に配布しては如何なものかと思えます。

若手会員増強に関しては、今年度の卒業作品展を明治村以後、見城教育部会長のお力添えにより、東京で「山脇ギャラリー」、「東京ビッグサイト＜IPEC＞」の2ヶ所で巡回展として展示されました。多くの方々が足を運んでいただき、日本インテリア学会の存在を認知され、関心がより高まることが期待されます。

おわりに

最近、私は「心理的障害除去（バリアフリー）」と

いう言葉をよく口にするのですが、街中における物理的・対人的障害の多さに閉口しているからなのです。「インテリア学大系」の議論の折にも出されていた生活場面での「振舞い方」、「作法」の在り方を再考し、共有化する手立ての模索が急務であろうと考えており、それは家庭や義務教育の中でも行うべき課題ではないかと。これについて改めて当方の意見を申し述べ、会員諸氏からの御意見を受け給わることに致します。

最後に次年度の大会は2008年9月27～28日に九州で行われる予定です。一年間に亘って学会諸活動に参加・協力いただいた会員の方々に深く感謝する次第です。



▲会長講演会挨拶

■ インテリア学会第19回大会の報告

大会実行委員会 松本直司（名古屋工業大学大学院）

1) 概要報告

一昨年度の沖縄大会の折に、岡島副会長より東海での開催の打診を受けた。東海支部では、名工大での第3回大回以来のことである。早速、沖縄大会参加者による支部会議を行い、受諾することにした。「特色ある大会にしたい」という意図の元に、会場を明治村で開催しようということになった。

翌年の平成18年総会で正式に東海に決定し、その後実行委員会を組織した。実行委員会は、なるべく多くの支部会員に参加頂くようにした。また実務を担当する実行委員長とは別に、支部との連携をはかるために、建部東海支部長を大会委員長としてお願いした。会場準備は、学会員の明治村・西尾雅敏委員を窓口にして会場部会が担当し、最終的に、研究発表、卒業作品展および理事会を第四高等学校武道場「無声堂」で、講演会を呉服座で行うことにした。

当初、明治村が犬山市の中心地区から離れ、参加費が高めになるなど、参加者数が少ないのではないかと懸念

された。

しかし、最終的には、大会参加者118名（会員）・14名（会員外）、その内訳は研究発表会90名、講演会95名、見学会70名、懇親会64名となり、例年に近い参加者となった。また、明治村の一般入場者の、卒業制作展と、講演会への立ち寄りが多く見られた。

大会期間は秋晴れになり、無事に終了することができた。

剣道場、柔道場、弓道の射場での研究発表会、日本の伝統的劇場での講演会は、参加者の記憶に刻まれたものと思っている。

最後に、博物館明治村の所員の皆様、展示ボードや看板用のダンボールをご提供頂いた中日本段ボール工業組合の皆様に、この紙面をお借りして謝意を表します。

2) 講演会

建部謙治（愛知工業大学）

講演会は、二日目の開会式の後に明治村の呉服座において開催された。講師は名古屋大学名誉教授、愛知工業大学客員教授の飯田喜四郎先生である。飯田先生は、中世ゴシック建築の権威で日本建築学会大賞を受賞されており、また伊勢神宮の第61回式年遷宮の神宮司技監を努められたことでも知られているが、博物館明治村館長であることからこのたび「近代建築：外観と内装」と題してご講演を依頼した。しかし、先生によると内装の資料を集めるととても1時間の講演時間では方付かないと言うことで、今回テーマを「近代建築と明治村」に絞ってご講演いただくことになった。

まず、前半が近代建築と明治村建設に至るまでを、後半はスライドによる個々の近代建築についての解説である。近代建築とは、幕末、明治初期から昭和初期の80～90年間に造られたものであり、洋風建築に影響を及ぼした技術者や建築家などの紹介とその時代区分が分かりやすく語られた。

今回の会場になった呉服座は重要文化財になっている芝居小屋で、早い時間帯にもかかわらず一般参加者も含めて約100名もの多数の聴講者が平場と呼ばれる桝席に陣取り、スライドを交えた先生のお話しに聞き入った。できるならば、次は近代建築のインテリアについて伺いたいものである。

3) 見学会

河田克博（名古屋工業大学）

大会第1日目に、大会実行委員会と歴史部会の共催により、見学会を開催した。明治村内においては、まずフランク・ロイド・ライト設計の「帝国ホテル中央玄関」

（旧所在地東京都千代田区）を、元明治村建築部長の西尾雅敏氏の要点を踏まえた解説により見学した後、2班に分かれ、西園寺公望公爵の別邸であった「坐漁荘」（旧所在地静岡市清水区）、もと油・穀物販売や銀行業を営んでいた商家の「東松家住宅」（旧所在地名古屋市中西区）を現地係員の解説により見学、そして9月下旬に移築竣工なったばかりの豪商の別荘であった武田五一設計の「芝川又右衛門邸」（旧所在地西宮市上甲東園）を西尾氏の解説により見学した。参加者は各自の視点から質疑も活発に交わし、とりわけ親交のあったライトと竹田五一の作品を同時に見るという、インテリア学の知見を新たにする見学であった。ここまでの見学参加者は100名余。

次いで、時間差で有楽苑へバス移動し、今回インテリア学会大会参加者に限定特別公開していただいた「如庵（国宝）」・「旧正伝院書院（重文）」を70名の参加者により見学した。旧正伝院書院で抹茶をいただきながら庭を鑑賞し、狭い如庵では7名ずつ順番に入らせていただき、名鉄犬山ホテル有楽苑参与の成瀬敏明氏の懇切な説明を受けながら、近世数奇屋のインテリア空間を堪能した。見学会の終わる頃には夕日も見られ、清々しく恵まれた天候のなかでの有意義な好評の見学会となった。

4) 懇親会

大嶋浩（Open it! 一般建築士事務所）

懇親会は、木曽川の清流のほとりに有ります名鉄犬山ホテル（聚楽の間）に於きまして夕刻6時より参加者64名が参加され、開会の挨拶を実行委員長の松本先生、歓迎の挨拶を大会委員長の建部先生がなされ、乾杯を高橋会長にして頂き懇親会が開催されました。

会場の雰囲気はお酒と、食事で多いに賑い、笑いが絶えませんでした。途中次期開催の九州大会のインフォメーションが湯本先生から有り、いい雰囲気です時間が過ぎて行きました。

午後8時の閉会が近づき、大会副委員長の河田先生から心暖まるお話を閉会の辞として閉幕となりました。

5) 卒業制作展

教育部会 部会長 見城美子（女子美術大学）

『第14回卒業作品展』および『優秀作品の表彰』

1) 「第14回卒業作品展」の開催

第14回卒業作品展を大会会場の明治村第四高等学校芸術道場に於いて10月6日（土）、7日（日）に開催しました。今年度は25校から40名の参加をいただき、会場には、学会関係者のみではなく、明治村を訪れた一般の方々の姿も多く見受けられました。

2)「優秀作品の表彰」の経過および結果報告

理事会で検討して頂いていた「優秀作品の表彰」が、今年度より正式に実施されました。各教育機関よりの代表作品ばかりの上、40点もの作品の中から、数点を選抜することは大変な作業でした。作品の内容は多種多様で、改めて「インテリア」の領域の広がりを実感しました。審査は10月6日(土)11時から審査委員会が行いました。今回も会期が大会時の2日間でしたので、その中での審査時間の設定には実行委員会の方々にご苦労頂きました。今後の課題の一つです。

学会から賞が受けられることが、これから社会で仕事に従事する若い方々にとって、少しでも励みになることを願って出来た制度です。始めて実施してみて、まだ考えなければならないことは多いと感じましたが、権威ある「賞」に定着するよう、学会としても検討を重ねていただくことを願っています。

尚、受賞者には、賞状と副賞(図書券)が贈られます。

●「審査委員会」委員

審査委員長	高橋鷹志(学会会長)
委員:大会委員長	建部謙治
実行委員長	松本直司
教育部会長	見城美子
教育部会幹事	田辺麗子
実行委員	大嶋 浩(敬称略)

●受賞者一覧

- ・最優秀作品賞(1名)
東京理科大学工学部建築学科/埴 宏実
- ・優秀作品賞(3名)
拓殖大学工学部工業デザイン学科/宮下健児
東京電機大学工学部建築学科/加茂川豊記
ICSカレッジオブアーツ/西村佳大
- ・奨励賞(高校の部より若干名)
都立工芸高等学校インテリア科/藤村友子
長野県立臼田高等学校インテリア科/林 香織

6)大会収支

A 収入(単位:円)

大会運営費(本部から)	450,000
参加者、参加費、登録費、梗概集費	779,000
懇親会費	516,000
見学会費	176,000
合計	1,921,000

B 支出(単位:円)

明治村入村料・施設使用料	83,500
会場設営費	132,788
見学会費(バス・有楽苑入園)	201,500
講演会講師料	30,000
懇親会費	422,480
休憩室お茶代等	4,908
文具・印刷費	60,632
アルバイト費	189,000
会議費・お礼等	237,990
実行委員会協力費(委員交通費等)	155,220
送料・運搬費等	30,992
大会保険料	29,400
本部返金	127,290
合計	1,921,000

7)大会役員

第19回日本インテリア学会東海大会実行委員会

大会委員長	建部謙治		
実行委員長	松本直司	副委員長	河田克博
総務部会			
部会長	麓 和善		
幹 事	北川啓介	清水隆宏	
委 員	雨宮 勇	宇賀敏夫	藤田淑子
	八代美代子		
会計部会			
部会長	星田博子	部会長代行	原眞佐実
幹 事	田中稲子		
委 員	河辺伸二	高橋啓子	
会場部会			
部会長	大嶋 浩	幹 事	高木清江
委 員	今井裕夫	小川英明	金田美世
	高橋敏郎	西尾雅敏	野崎 勉

8)写真



▲芝川邸見学会



▲呉服座講演会



▲卒業作品展



▲会長懇親会挨拶



▲柔道場での発表風景



▲射場発表会風景

■第19回大会（東海）研究発表題目一覧

A 論文発表部門

【計画 (1)】 13:00 ~ 13:50 [柔道場] 【座長：橋本都子】

- 001 平座の種類の難易度・安楽度に関する調査と分析
小宮容一（芦屋大学）・井上徹
- 002 断面のズレを伴う2居室の空間形状意識
一下層居室からの見回し—
石田貴之（名古屋工業大学）・前田将嗣・松本直司
- 003 平面計画の質的評価に関する研究 (5)
和室の計画内容の把握その2
一和室の建具の使われ方—
横田哲（SI(エスアイ)住宅研究室）・杉本健二
- 004 空間の自己化とその表出に関する研究 その10
インテリア空間の自己化のプロセスとそのモデル化
松田奈緒子（京都工芸繊維大学）・加藤力
- 005 表現材料の特徴が子どもの空間表象に与える影響
一秘密きちワークショップを通して—
北浦かほる（帝塚山大学）

【計画 (2)】 13:55 ~ 14:45

[柔道場] 【座長：松田奈緒子】

- 006 ファッションブティックの空間構成・什器配置・導線計画に関する調査研究 橋本雅好（椋山女学園大学）・伊藤美季
- 007 美浜打瀬小学校の空間デザインの評価と考察
教育・学習・生活環境としてのオープン型小学校の現状と今後のあり方
橋本都子（千葉工業大学）・佐藤将之・赤松佳珠子・倉斗綾子・上野佳奈子・高橋鷹志
- 008 児童養護施設の8人居室における小集団の領域形成の検討
一児童養護施設の施設計画条件に関する研究—
青木一郎（名古屋工業大学大学院）・矢田努・高木

清江・仙田満・松本直司

- 009 親子同居における洗濯の協力と分離
黒木美博(旭化成ホームズ(株)二世帯住宅研究所)・松本吉彦
- 010 家族の家事参加の視点からみたキッチン空間のあり方に関する調査研究
平岡さち(島根大学教育学部)

【計画(3)】14:50～15:50 [柔道場]【座長:橋本雅好】

- 011 子育てのための居住環境「子育てパブリック」の考察～少子化対策に貢献する居住環境の研究 その2～
河崎由美子(積水ハウス(株))・服部正子・中村孝之
- 012 暮らしとモノからみた生活領域研究
一現代戸建住宅調査から一 長山洋子(文化女子大学)
- 013 部屋からスペースへ/シュレーダー邸を題材とするインテリアの近代にかかる思考実験 灰山彰好(StudioHAIYAMA)
- 014 建築計画での地球環境配慮の方法のとらえかたの差異から示唆されること
一高性能工法採用者に見られる傾向をもとにした考察一
宮坂雅子(東京大学)・西出和彦
- 015 連動回転軸を扉側に設けた滑り出し扉の試作
小原誠(文化女子大学非常勤講師)
- 016 扉の開け方とドアノブ・ドアハンドルの形状との関連について 西山紀子(兵庫科学技術学園)

【人間工学(1)】13:00～13:40

[剣道場]【座長:渡辺秀俊】

- 017 室空間の平面位置による「居心地感」の違いに関する実験研究
内田公一(東京理科大学)・垂井健吾・久保田一弘・直井英雄
- 018 事務用いすの設計マニュアルに関する試み
上野義雪(千葉工業大学)・上野弘義
- 019 オフィス用椅子の座り心地評価法の試案
浅田晴之(鉄)岡村製作所)・上野義雪
- 020 椅子・机の条件が筆記具の機能に及ぼす影響
鈴木剛(コクヨS&T(株))・上野義雪

【人間工学(2)】13:55～14:45

[剣道場]【座長:直井英雄】

- 021 フリーアドレスオフィスに適合するいすの評価に関する研究 菅又圭亮(千葉工業大学)・上野義雪
- 022 ハンドル形電動車いすの通路走行に関する基礎的研究その3
西岡基夫(大阪市立大学大学院)・石橋達勇・猪井博登
- 023 生活場面におけるロボットの存在に対する違和感

ロボットと人間との相互交流に関する試行実験(その7)

渡辺秀俊(文化女子大学)・佐野友紀・林田和人・高橋正樹・遠田敦・吉岡陽介

- 024 住宅におけるロボットの人間に対する適正な位置に関する研究 ロボットと人間との相互交流に関する思考実験(その8) 林田和人(早稲田大学理工学術院)・高橋正樹・渡辺秀俊・佐野友紀・遠田敦・吉岡陽介
- 025 インテリア空間における動線の有効利用に関する研究(1)
一公共トイレにおける入り口周辺の場合一
穴沢舞(千葉工業大学デザイン科学科4年)・上野義雪

【人間工学(3)】14:50～15:40

[剣道場]【座長:上野義雪】

- 026 階段勾配・昇降動作・身長と手すり高さの関係
一階段手すりの設置高さに関する研究その1一
瀬戸口俊也(東京理科大学)・布田健・加藤正男
- 027 人体寸法分布を考慮した手すり高さ算出法の検討
一階段手すりの設置高さに関する研究その2一
布田健((独)建築研究所)・加藤正男・瀬戸口俊也
- 028 シンク作業の負担軽減を目的とした「もたれバー」の有効性に関する研究 宮本鈴実((株)ノーリツ)・上野義雪
- 029 立ち座りに苦痛を感じる女性のための女性用立位小便器
高井智代(㈱INAX)・高橋信子
- 030 住宅用火災警報器の有効性
建部謙治(愛知工業大学)・川口達也

【歴史】13:00～13:40 [弓道場]【座長:西尾雅敏】

- 031 装飾デザインの背景を探る
英国中流階級にみるヴィクトリアンスタイル
塚口眞佐子(大阪樟蔭女子大学)
- 032 擬洋風建築 郭医院のデザイン的特徴について
千森督子(和歌山信愛女子短期大学)
- 033 リートフェルトのクレート家具に関する研究
西中紗也佳(パナホーム㈱)・片山勢津子
- 034 C・R・マッキントッシュの家具デザインの特徴(その4)
C・R・マッキントッシュのインテリアデザインに関する研究(その8) 高橋敏郎(愛知淑徳大学)

【その他 (1)】 13 : 55 ~ 14 : 45

【弓道場】【座長：北浦かほる】

- 035 インテリア分野におけるCAD資格・認定制度の開発について(その4) インテリアCAD認定制度の現状
稲田深智子(相模女子大学短期大学部)・河村容治・川島平七郎・岡田悟
- 036 インテリアを学んだ学生の進路に関するアンケート調査
—その2-1 教育機関の就職先調査結果と考察—
河村容治(東横学園女子短期大学)・高月純子・高柳勝彦・市村倖子・植松嘩子・川島平七郎・見城美子・田辺麗子
- 037 インテリアを学んだ学生の進路に関するアンケート調査
—その2-2 卒業生アンケートの結果と考察—
高月純子(女子美術大学)・河村容治・高柳勝彦・市村倖子・植松嘩子・川島平七郎・見城美子・田辺麗子
- 038 インテリアを学んだ学生の進路に関するアンケート調査
—その2-3 企業の採用調査結果と考察—
高柳勝彦(都立工芸高校)・河村容治・高月純子・市村倖子・植松嘩子・川島平七郎・見城美子・田辺麗子
- 039 照明による室空間の演出効果
～照度・色温度・配光の影響～
白石光昭(小山高専)・中島龍興・渡辺秀俊

【その他 (2)】 14 : 50 ~ 15 : 40

【弓道場】【座長：高橋敏郎】

- 040 テーブルスケープデザインに関する研究-1 ー概念と領域ー
中野久美子(宝塚造形芸術大学社会人大学院)・加藤力
- 041 透視図に関する研究 その2 言語から形象化へのプロセス
宮後浩(関西支部)・加藤力
- 042 木造住宅における壁紙施工のサンプリング調査2
加島守(職業能力開発総合大学校東京校)・松浦勝翼・箭内慎吾・角野政弥・山下洋一・松村年郎
- 043 木製家具産業における地場産業活性化の先進事例研究
ー日本北海道旭川市の事例を中心に
尹汝抗(弘益大学校美術大学)・小林謙
- 044 高弾性ポリエステル繊維を使用した家具のデザイン開発
滝本成人(相山女学園大学)

B パネル発表部門

【設計デザイン】 15 : 30 ~ 16 : 00

【第四高等学校武術道場】【座長：片山勢津子】

- 045 雪灯りとみどりをつつむ家
インテリアとしてのOrganic Unity
今井裕夫(岐阜市立女子短期大学)
- 046 マグネシウム合金による中吊りポスター交換作業用
脚立の設計 松崎元(千葉工業大学)・角南健夫

■ 第19回大会研究発表講評

座長報告・講評は、年報にまとめて報告されますが、既に戴いた原稿は速報させて戴きます。

- 計画 (1) [柔道場]【座長：橋本都子】
□計画 (2) [踊り場]【座長：松田奈緒子】
□計画 (3) [柔道場]【座長：橋本雅好】
□人間工学 (1) [剣道場]【座長：渡辺秀俊】
□人間工学 (2) 【座長：直井英雄】

21(菅又)は、フリーアドレスオフィスに適合するいずれを選定する際の評価法に関する基礎的な研究である。評価項目の設定根拠、評価者の数など、現段階では若干の疑問を感じさせる部分もある。たとえば、評価項目として使用者の体格差への対応性や、着座者の心理的距離といすの平面寸法の関係などは採りあげないでよいのだろうか。しかし、まだ着手段階の研究と思われるので、今後の展開に期待したい。

22(西岡)は、ハンドル形電動車いすの通路走行に関する継続研究のなかで、通路を右左折する場合の問題を扱ったものである。きわめてオーソドックスな人間工学研究で、きわめて妥当な結論を導いている。今後の研究に希望を言わせてもらえるならば、単独の車いすと空間寸法との適合性の観点だけでなく、健常者集団と同居する場面で生じる物理的・心理的な軋轢の問題なども観点の一つとして採りあげていただけたらと思う。

23(渡邊)、24(林田)の2題は、ロボットが生活空間に入ってきたときの人間との共生上の諸問題を扱う一連の研究である。このうち023は、生活場面でのロボットの存在そのものの違和感をテーマにしたものであり、024は、人間にとって邪魔に感じないロボットの動きや待機位置を明らかにしたものである。妥当な方法で、妥当な結論を導いている。

25(穴沢)は、公共トイレの入り口周辺の動線計画に関する人間工学研究である。動線の複雑さを筋負担で評価しているのはもちろんひとつの指標として使えようが、それだけで本質に迫れるものか、疑問もなくはない。今後の研究の展開に向けて、研究方法上の論理についてもさらに検討していただきたい。

- 歴史 [弓道場]【座長：西尾雅敏】
□その他（1）【座長：北浦かほる】
□その他（2）【座長：高橋敏郎】

- 設計デザイン [第四高等学校武術道場]
片山勢津子（京都女子大学）

パネル発表は2件、入り口土間部分というとても親密な空間で行なわれた。

45(今井)「雪灯りと緑をつつむ家 インテリアとしてのOrganic Unity」は、石川県小松市の住宅についての発表である。旧市街に面した道路空間をインテリア化し、庭のみどりの気配を道路と呼吸させるためにコートハウス方式を採用している。デッキに雪国の日常の記憶をとどめることを主題としている。配置図等の工夫があれば、より理解しやすかったと思われる。

46(松崎)「マグネシウム合金による中吊りポスター交換作業用脚立の設計」は、列車内の中吊りポスター交換作業で使用するための脚立の試作で、マグネシウムの軽量性を生かし、片手で開閉できるデザインが提案されている。マグネシウム合金は軽量でリサイクル性に優れるが、加工の難しさやコスト面からまだ使用が限られている。現地では未検証とのことであったが、今後の展開が期待される。

■ 運営委員会だより

□総務委員会

□広報委員会

湯本 長伯（九州大学大学院・デザイン総合部門）
広報委員会活動としては、下記3点を報告します。

1) 事務ホームページ

事務ホームページの更新（23回）を行った。大会（東海・犬山）以降についても多くの掲載情報を戴き、良いアップデートが来ています。HPの価値は更新頻度にあると言われるので、もちろん中身も重要だが、会員や役員の方々の更なる更新要求・情報提供を、お願いします。永田町インテリア見学会2/08（国会議事堂・憲政記念館）の記念写真、人間工学研究部会研究会のお知らせ（2/29）等、新しいコンテンツが掲載されています。

またホームページのURLは、

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/> です。
お間違えないように、宜しくお願いします。

2) 広報委員会では、以前から計画していたインテリア

学会メールニュースについて、試験的発行を継続しています。

様々な内容を、“[JASISmailNEWS][00017] インテリア学会メールニュース第0012号<2008.02.11>”といった件名で、お届けしています。現在は、メールアドレス登録者が164名ですので、まだまだ試験的なものですが、色々な形で試運転しながら、次第に充実させて行きたいと思います。皆様の一層のアドレス登録を、お願い致します。

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/mailnews.html>

3) またこの会報41号を発行（編集長：平井康之／九州大学大学院）したが、テンプレート変更について、議論の結果を少しずつ反映している。今号からは、インテリアの大系を再考する試みとして、また結果報告以外の読める内容を掲載するという意味でも、「インテリアの行方」という連載コラムを新設した。どうぞご意見をお寄せ戴きたい。

4) 会報としては現在、最低でも総会後（大会前）と大会後及

び年報（総会前）を発行しているが、もう少し違った切り口の提案があれば、編集委員会（広報委員会）も動きやすいので、ぜひご意見・ご叱責をお願いしたい。

(yumoto@design.kyushu-u.ac.jp)

□国際委員会

□論文審査委員会

直井英雄（東京理科大学）

2008年2月現在、論文報告集第18号の応募論文審査の最中です。年度内発行を目指して努力しておりますが、若干年度を超えてしまったらご容赦ください。なお、かねてより申請していたISSN（国際標準逐次刊行物番号）が付与され、この18号から「ISSN 1882-4471」と表紙に表示できることになりましたのでお知らせいたします。

■ インテリア学大系WGについて

湯本長伯（九州大学大学院・デザイン総合部門）

1月22日に東京・三田の建築会館会議室で、「インテリアシンポジウム」を開催しました。進行概要は。

開 会：高橋鷹志（日本大学）
講 師：湯本長伯（九州大学） 小原 誠（前広島大学）
栗山正也（KDアトリエ） 西出和彦（東京大学）
松本哲夫（剣持デザイン事務所）
討 論・まとめ：広田直行（日本大学）
であった。

インテリア学会だけでなく、日本建築学会・インテリア
アプランナー協会などから、16名の参加があった。小原
二郎名誉会長も、関西地方の用務を切り上げて参加され
たが、参加者の少ないことには大変心配されていた。

しかし内容的には大変良い議論が出来たと思われ、今
後にWGでの議論と呼応させながら、内容を高めて行く
予定である。

これを第一回として、今後も双方向的な議論の場を設
けて行きたいので、皆さまのご参加を宜しく願いま
す。

[http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/
080122Cover.pdf](http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/080122Cover.pdf)

また2月8日に「見学会－永田町の建築とインテリア」と題して、国会議事堂及び憲政記念館の見学を行っ
た。当初は最高裁判所他も企画していたが、応募人数が
70名近くになり、急遽、内容を半減させて実施したもの
である。

これは、インテリアの大系を考える上で、理論的枠組み
からだけでなく、実際のデザイン結果、計画設計の過程な
どにも、目配りをしておきたいという観点から企画実施
したものである。今後も最高裁判所や国立国会図書館等
の見学を予定している。

急なお知らせは、ホームページ、及びメールニュース
以外、適当な手段がありません。

[http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/
ngt080208.jpg](http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/ngt080208.jpg)

[http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/
mailnews.html](http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/mailnews.html)

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/>

■ 支部だより

□北海道支部

支部長 渋谷邦男（札幌芸術専門学校）

□東北支部

支部長 若井正一（日本大学工学部）

□北陸支部

支部長 小松亮一（金沢工業大学）

□関東支部

支部長 岡田 悟（共立女子短期大学）

平成19年度は見学会・セミナーを1回、下記のように
実施しました。

日 時：8月1日（水）13:30～16:30

会 場：UR都市機構都市住宅技術研究所（八王子市
石川町）

内 容：13:30～14:50見学会「集合住宅歴史館」

同潤会代官山アパート、住宅公団の多摩平団
地、晴海高層アパート等の住戸が復元展示さ
れているのを見学

15:00～16:30セミナー「アパートメントハ
ウスが輝いていた頃」

講 師：共立女子短期大学 山森芳郎教授

参加者：24名

また、支部に関係するホームページを充実させました。
日本インテリア学会・事務局ホームページトップ→支
部・関東→関東支部ニュースNo. 7、No. 8、No. 9とク
リックしていただくと、関東支部会員にのみ配布してい
る関東支部ニュースの7、8、9号が全国から見られま
す。

□東海支部

支部長 建部謙治（愛知工業大学）

□関西支部

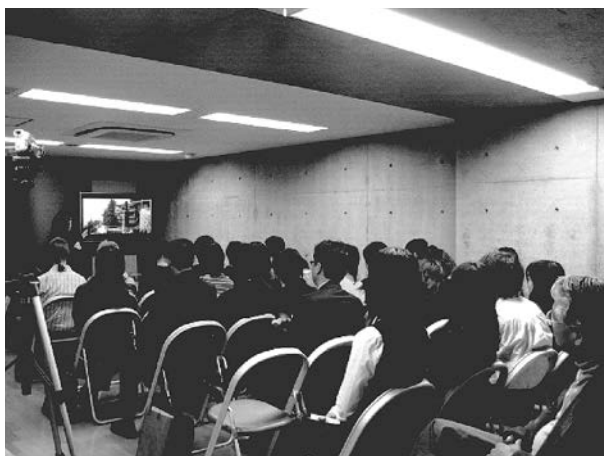
支部長 北浦かほる（帝塚山大学）

2007年度 関西支部講演会の報告

◇ プロダクトデザイナー喜多俊之氏講演会

2007年10月25日にT S ビルのギャラリーanima（安藤
忠雄設計）で「すてきな暮らし」と題して喜多俊之氏に
日頃考えておられるデザインのあり方についてお話して
いただきました。氏はミラノと大阪を拠点に世界で活躍
されており、時間調整が非常に難しかったのですが、パ
リ帰りの翌日ということで指定された日程にあわせて、
やっと開催することができました。参加者には講演前に
ギャラリーを鑑賞していただきました。講演会は18時か
らということで、喜多氏のこれまでのデザインと制作活
動をパワーポイントを見ながらお話していただきまし
た。WINK CHAIRやTWO POINT WATCH、AQUOSなど時代
の変化の動向を的確に予測しながらデザインされてこら
れました。現在は伝統工芸の漆や和紙などの素材をどの
ように生かしていくかに力を注いでいるというお話でし
た。会員だけでなく学生や会員外の方々の参加も多く、
参加者は33人で、質問も活発になされ活気に満ちた講演
会となりました。講演会終了後21時頃まで、喜多氏を囲
んでの懇親会をもちました。喜多氏の気さくなお人柄と

学生達の熱気を感じられるデザイン論に花が咲き、久しぶりに若々しく楽しい会合がもてました。



▲喜多氏 講演会のようす

◇「家族の絆をつくる家」講演会 講師：外山智徳氏

2007年12月1日午後2時から大阪駅前第2ビル6F、大阪市立大学文化交流センターの大セミナー室で、静岡大学名誉教授外山智徳氏をお招きして「家族の絆をつくる家」というテーマで、講演会を開催いたしました。氏は長年、精神的病理をテーマに子ども部屋をみるという研究を重ねてこられました。生活空間には家族の人間関係が表れており、それは記号学的アプローチで表せるということでした。登校拒否と不登校の違いなど、様々な精神病理の実例と問題になる空間の例をあげながら、家族と子ども、住空間の関係について興味深いお話をいただきました。活発に質問が出され、講演会終了後も話題は尽きませんでした。今回も会員の他に非会員や学生の参加が多く、参加者は36名と大盛況でした。

□中国四国支部

支部長 大森豊裕（近畿大学工学部）

□九州支部

支部長代行 湯本長伯（九州大学）

大会での理事会において、九州大学における本年度大会の開催が決定した。近日また支部会を開催し、評議員選挙の実施と今後の活動についてのディスカスもしたいと思います。

またこの大会とある種のセットで、AIDIAワークショップの開催についても、九州支部で会場を引き受けることとなりました（2月1日開催の日韓会長打合せ／韓国AIDIA会長・Lee先生、日本JASIS会長・高橋先生、JASIS事務局長・西出先生）。

概略は、AIDIAワークショップを2008年夏、日本で開催する。開催地として九州大学大橋キャンパスを候補

とする。WSの日程は4日くらい。見学ツアーも考える。但し、未だ中国の意見がわからないため、中国の合意を待って正式決定とする。

以上のように、九州支部にとっては忙しい年度になりそうですので、近日また支部会を開催し、今後の活動について、ディスカスもしたいと思います。また九州支部は、20名に足りない会員状況です。会報等で、積極的に新しい会員獲得活動を、展開して行きたいと考えています。様々な照会事項については、湯本までメールをお送り下さい。学生への勧誘も、現会員以外のインテリア関係者への勧誘も、宜しくお願いします。

(yumoto@design.kyushu-u.ac.jp)

候補日：3月24日（月）／27日（木）・いずれも16時
（九州大学・大橋キャンパス・デザイン総合部門）

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/kyus0710.htm>

■ 研究部会だより

□歴史部会

部会長 内藤 昌（愛知産業大学）

代表幹事 河田克博（名古屋工業大学）

大会見学会を行った。関連報告を、ご覧下さい。

□デザイン部会

部会長 佐戸川清（ゼロファーストデザイン）

「デザイン部会より」という件名で、部会ニュースを発行している。最新号は2008年2月22日号で、この1年間に約10号を発行した。

受信を希望される方は、デザイン部会まで。

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/desg.html>

□計画・構法部会

部会長 栗山正也（KDアトリエ）

1）当部会に平成12年に設置した「インテリア工事・仕様書等基礎調査研究委員会」（委員長 小原誠）が主導し（社）インテリア産業協会の支援のもと、インテリア関係団体代表者による「インテリア工事標準仕様書検討委員会（委員長小原誠）」を立ち上げ原案の検討を進めてきた「標記仕様書」が、このほど完成し（財）経済調査会より発刊されました。この経緯と概要については小原委員長からの別報がありますが、いずれにしてもこれは小原委員長の精力的な活動なくして成し得なかったことで、インテリア領域の社会的な役割を明確にする上で意

義あることであり、今後インテリア業界にとって大きな力になることが期待されます。

当学会が中心となり関連団体と連携し一つの事業を完成させたことの意義も評価できます。

2) かねてから当部会内に準備委員会を設け検討を続けていた「インテリア学大系編纂」については、19年度の大会時の「理事会」で研究部会：特別委員会「インテリア学大系編纂検討委員会（委員長湯本長伯）」として承認され新たな段階に進みました。特別委員会として多くの方の参加を得て活動の輪が広がることを期待します。

3) 「インテリア」にとっても“気候変動”“温暖化”などは無視できない問題といえます。

具体的にインテリアの計画、設計の中で省エネ、省資源そして持続可能性などの要素にどう対応すればよいのか、個人ではなかなか取組めない課題です。

そこで、あらたな「インテリアの計画・設計方法等について」部会として取組んでいくべきではないかと考えています。ご意見がありましたら是非お聞かせください。

とりあえず、窓口は以下とします。

Eメール：kdat1@sepia.ocn.ne.jp

(部会長：栗山正也)

□人間工学会

部会長 白石光昭（小山工業高等専門学校）

研究会「最新オフィスの見学会/講演会」のご案内

昨年の総会時に学会主催によるオフィス関連のシンポジウムが開催されました。当部会ではその内容を引き継ぐ形でオフィスの見学会と講演会を企画いたしました。

シンポジウムでも話がありましたが、モバイル化をきっかけとした新しいワークスタイルはどんな変革をオフィスインテリアにもたらしているのでしょうか。オフィスで使用されている家具はどう変化し、どのような使われ方をしているのでしょうか。そして、働く人にどのような影響を及ぼしているのでしょうか。実際にオフィスを見学することには、このような疑問に対する解答のヒントを得る、全般的な理解が深まるなどの効用があると思われます。今回、コクヨオフィスシステム株式会社様のご好意によりオフィスを見学させていただけることになりましたので、オフィスに関心をもたれている多くの皆様のご参加を頂き、上記のような疑問について議論できれば幸いです。

記

日 時：2008年2月29日（金） 午後2:30～5:00

(受付2:30～、開始3:00～)

場 所：コクヨオフィスシステム株式会社

<ホームページ：http://www.kokuyocw.co.jp/>

<地図http://www.mapion.co.jp/c/f?uc=4&ino=BA509190&grp=mapionlight3>

住 所：千代田区霞ヶ関3-2-5霞が関ビルディング18階

(地下鉄銀座線「虎ノ門駅」下車徒歩5分)

<当日のスケジュール>

① 見学(約40分)

② 講演：「クリエイティブオフィスコンセプトとその実際」(約40分)

③ 討議(質疑応答含)(約30分)

注意：なお、スペース等の点から見学者は20名となっておりますので、申し込み先着順とさせていただきます。また、大変申し訳ありませんが、同業他社の方はご参加できませんので、ご了承ください。

申込先：小山高専 建築学科 白石 光昭 宛

メールアドレス：shiraish@oyama-ct.ac.jp

(アドレス注意)

FAX：0285-20-2888

参加ご希望の方は所属とお名前を明記の上、上記宛にメールまたはFAXにてご連絡下さい。なお、参加いただけない場合にのみご連絡いたしますので、FAX番号またはEメールアドレスを忘れずにお書き下さい。

(印刷物は間に合わないため、ホームページ及びメールニュースで、お知らせしました。情報共有のため、研究会内容を掲載致します/広報委員会)

□教育部会

部会長 見城美子（女子美術大学）

1) 「第14回卒業作品展」および「巡回展」の開催

今年度は2007年10月6日（土）7日（日）の2日間明治村第四高等学校武道場にて「第14回卒業作品展」を開催しました。落ち着いたほの暗い武道場の会場にユニークに作品が展示され、例年とはひと味違った展覧会となりました。また、今年度は東京の2カ所で、巡回展を開催しました。山脇ギャラリーには、出品者も多く訪れ、懇親パーティも行われました。

●山脇ギャラリー展：2007年11月2日～13日

●インテリアフェスティバル2007：ギャラリー作品展
(東京ビッグサイト) 2007年11月21日～24日

巡回展は20年度も開催の予定で準備を進めています。

また、今後も続ける方向でいます。

卒業作品展は大会時に開催ということで、1日または2日間の会期になり、せっかく集まった作品をもう少し多くの方に見てほしいとの思いがありました。今年から山脇美術専門学院のご厚意でギャラリーを貸して頂くことになり、また、インテリア産業協会のご協力をいただき、ビッグサイトでのインテリアフェスティバルへの参加が出来るようになりました。学生の励みになると同時に、インテリア学会のことも知っていただくチャンスになればと、思っています。

2)「インテリアを学んだ学生の進路に関する調査」報告
2006年よりインテリアを学んだ学生の進路についてアンケート調査を進めていますが、昨年に続き大会において以下の3題で発表しました。

その2-1 教育機関の就職先調査結果と考察

その2-2 卒業生アンケートの結果と考察

その2-3 企業の採用調査結果と考察

現在、これらを報告書にまとめています。

* お知らせ

卒業作品展への出品依頼は教育部会員の所属されている学校を中心にご案内していますが、その他にもご参加いただける学校は、ご連絡いただきたいと思います。書類をお送り致します。

kenjo@joshibi.ac.jp Tel / Fax 042-778-6641

□CAD部会

部会長 川島平七郎 (東横学園短期大学)

□住宅部会

部会長 直井英雄 (東京理科大学)

【新コラム】

■連載『インテリアの行方』

「インテリアの行く末」

栗山正也 (KDアトリエ)

昨夏、長年抱いていた“思い”を確かめる機会を持つことが叶った。目的の場所はイタリア・ソレント半島の根もと、そこに2000年も眠っていた都市・住居跡“POMPEI”である。

その思いとは、壁面に象徴される濃密な生活(住)空間が西欧的インテリアの原点であり、その源流は現在もいきっていて、特にわが国で昭和30年以後発展してきた新しい住空間＝インテリアは、その支流の中を漂っていたに過ぎなかったのではないのか、という“反省を込めた

思い”である。

さて、“POMPEI”であるが、前日は遺跡とは少し離れた市街に泊まった。そして翌早朝遺跡に一番乗りをして、まずは城砦の東側の切れ目から人影のない中央大路へ。そこは一段高い歩道が備わったごろごろとした大石が敷き詰められ真っすぐな道路で、遺跡だから当然なのだが、崩れかけた茶色の単調な壁が城砦の東から西の奥に向かって連続して伸び、その単調さは整然と区画された小路も同じで、個としての建物の姿は全く見えない殺風景な街並であった。その大路の歩道を壁に沿って進むと適当な間隔で切れ目(開口)があり、それが住戸や店舗の入り口であった。全てが見学できるわけではないのだが、住戸内に立ち入れるところを1軒、2軒と見ていく内にだんだん興奮が高まって、我知らず小走りになり、写真を撮りまくっていた。街路の風景とは裏腹に3面が戸境壁で囲まれた住戸は、その中に現代の住居としても充分に通用する、むしろ個性的でうらやまばかりの豊かな空間づくりがされていたのである。入口から望むアトリウム、それを囲むように配置された居室、作業場、更にその奥に通じる狭い通路(廊下)の向こうには列柱庭園があり、その周囲に食事室や家人の私室が配されている。居室は全てアトリウムや中庭に面し、その面のみ開口があり採光できる。他の3面の壁は壁画が描かれることになる。しかし各住戸は広さや平面の形状が異なるので、それに沿って様々に空間構成が工夫されている。大路に面して並ぶ住戸は邸宅や店舗、工房なども混在する階級差の感じられない街でもあった。同じ壁画は全く見あたらないことと併せて個々の空間の独自性、多様性など、その完成度の高さは素人が夫々勝手に工夫して作らせたとは考え難い。そこには専門家が介在し、それぞれ専門の職人(アーティスト)達の仕事をコントロールして建てられたに違いない。そしてこの街がほぼ完成に達したのは火山灰に埋もれる200年～300年以前であったが、その間には度々地震にも襲われ、増改築が絶え間なく行われていた痕跡もあり、今でいう2戸1のリフォームや、その時代の様式に合わせた壁画の描き変えも行われていたらしい。即ち、基本となる街区と住居の構造は増改築に耐えうる堅固な技術で作られていたようでもある。まさに“200年住宅”の原型が既にあったといえる。我ながら、手本にしたいことが諸々見えた。POMPEI>だったのである。

さて、ここまでは1旅行者の感想文に過ぎないが、ここから懺悔としての私的見解を述べたい。問題は、何故手本にしたいと思えたのだろうか。先にも述べたように、S30年代から欧米のライフスタイルを学び追従してきた我身は、その起源ともいえる<ローマスタイル>に出会って、たやすく得心してしまうのだが、ここで少し止まって考えてみる必要がある。

確かにローマ文化は優れたものであり、その成果が現代社会にまで継承されているものも少なくない。しかし、〈POMPEI〉が華やかな時代、紀元0年に世界の総人口は1億人程度、現在は66億人、そして21世紀半ばには100億人に達すると予測されている。人口の増加を含めて地球環境の限界が見えてきた現代、人々の生活を（物理的に）支える住空間＝インテリアとして、〈ローマンモデル〉はこれからも望むべきものなのだろうか。それは限られた階層の人達にのみ提供されればよいというものではない。今こそ、〈ローマンモデル〉の呪縛からはなれて、これからの時代にふさわしい新たな住居モデル、インテリアモデルを見出し、提案することが専門家に課せられた務めではないのだろうか。出来ることならそのモデルが日本発であることが望ましいのだが。



「インテリアの行方」

松本直司（名古屋工業大学大学院ながれ領域）

(1) インテリアとの関わり

私がインテリア学会と関わりを持ったのは、平成元年に名工大に赴任してからのことです。当時、名工大に内藤昌教授、岡島達雄教授が在職していらっしゃいまして、早速入会と言うことになりました。正直申しまして、その頃はインテリアに対する意識は少なく何をしたものかといった状況でした。それでも学会支部のお手伝いをしている間に、様々な分野の人と出会い、新たな研究のヒントを得ることができました。海外視察も良い経験でした。東海支部自体の体制がしっかりしていたことも励みになったと感じています。

入会してまもなく平成3年の名古屋工業大学での大会の実行委員会に名を連ね、会計担当をさせていただきました。平成19年に実行委員長として明治村を会場にして開催できたのも、その時の経験が少なからず役だったと思います。

(2) 支部活動の重要性・国際化の波

東海支部で活動していつも感じることは、東京での催し物や動きは支部にとって遠いものであるということだと思います。そういう中で、申し上げるまでもなく、学会が会員に有意義であるためには、支部の活動が重要な役割を担います。会員が顔を合わせて互いに言葉を交わすことができます。興味ある企画をたて、人々の交流を演出するわけですが、付随して気の置けない気楽な会合、例えば懇親会は欠かすことのできません。会員に対するサービスとして、顔の見える情報や交流が大きな役割を持っています。

これまで、学会活動を通して見えない壁を感じてきました。学会も世代交代が進行していく中で、より開かれたものになっていくものと期待されます。とにかくマンネリ化しがちな組織において、時代の大きな波を先取りした、斬新で、興味深い活動が必要です。その原動力となるのが、若手の会員の増強であり、会員の要望を直接反映できる支部活動であると認識しております。若い会員に夢をもたらしかけがなになのか、学会全体で考える必要があるでしょう。若手を中心とした活動組織が必要です。

一方、国際化による海外との交流の活発化もキーワードです。学会が交流のための窓口となる必要があります。外国の窓口紹介、海外インテリア視察、様々な形での実際の国際交流の場となることが望まれます。今更ながらですが、ネットによる情報・意見交換は欠かせません。



■ 平成20年度AIDIA大会（日本）について

JASIS 事務局長 西出和彦（東京大学）

「会長より」「九州支部」の関連報告をご覧ください

（P1, P10）。



■ インテリア工事標準仕様書について

インテリア工事標準仕様書委員会

委員長 小原 誠

はじめに

これまで何回か会報に中間報告をいたしました。このほど七年がかりで出版にこぎ着けた「インテリア工事標準仕様書」について改めてご報告します。本仕様書は2000年末にインテリア産業協会の支援を得て、インテリア関連四団体（インテリア産業協会、日本インテリア学会、日本インテリアデザイナー協会、日本インテリアプランナー協会、50音順）の協議により、委員会を組織して公的に使用できるインテリア工事仕様書を作成する基本方針を確認しました。

これまでの経緯

インテリアデザインという分野が、インテリアコーディネーターやインテリアプランナーの公的な資格化などで社会的に認知されてから20年以上経過しているのに、まだインテリア工事の範囲すら明瞭とは言えず、また工事のための設計図書は作成されても、設計図面と重

要な補完関係にある仕様書については、建築のような標準となるような公的仕様書が存在していませんでした。インテリア業界の発展と地位向上のためにも「インテリア工事標準仕様書」作成は重要な意味をもっております。そこで翌2001年度より上記四団体から選出された委員により案文の作成作業が開始されました。5年程度の作業で本文を出版できると予定していましたが、2005年に全国 8箇所で開催した本文の説明会の反応から、解説の同時発刊の必要性が認識されるに至りました。本来の工事仕様書は工事のためのものですが、インテリア業界では設計の参考書であるような認識があったので、解説文・解説図をセットとする内容を追加し、このほど発刊の運びとなったものです。

過日東京ビッグサイトで開催された IPEC 会場で、11月22日本仕様書のセミナーを開催致しました。またこれにさきだち業界紙へのプレス発表も行いました。

既存標準仕様書との関係

インテリア工事は建築工事と重なる部分が少なからずあり、このような記述は公的な標準仕様書類と矛盾するわけにはいきません。ここでいう公的な建築の標準仕様書類とは日本建築学会建築工事標準仕様書 JASS、国土交通省監修の公共建築工事標準仕様書並びに公共住宅建設工事共通仕様書などです。設備については空気調和・衛生工学会の空気調和・衛生設備工事標準仕様書 HASS010 も外す訳にはいきません。そこで本仕様書では、インテリアに関連する記述について、これらの公的な仕様を矛盾のないように取り込んでいます。

インテリア工事の想定範囲

建築をスケルトンとインフィルに分ける考え方に立てば、インテリアはインフィルを対象とします。従って、インフィルは建築の中にすっぽり包含されることになります。しかしながら、一般的に建築はその使用対象者の全般的特性を包含するように設計するのが通常であるのに対して、インテリアでは、インテリアの利用者をより限定的にとらえているところに特徴があります。そのためインテリアでは不動産である建築物以外の家具・什器、あるいは装飾品等の動産類も包含することになります。さらに付帯的サービスとして、リフォーム工事の際の室内の物品の移動・仮移転・保管などの作業や、リフォーム対象外の部分のハウスクリーニングも必要となる場合があります。つまりインテリア工事は、単なる建設工事でなく、サービス産業としての側面が大きいのです。

またインテリア業界の一部には、仕様書の記述範囲は強制的にインテリア工事に包含させねばならないような誤解があるので、あらためて標準仕様書とは、取り扱い

の可能性のある範囲を記述しているものであって、工事の際に作成する特記仕様書によって工事内容を限定することも、また拡張することも可能であることを改めて指摘しておきます。

設計施工一貫の場合の扱い

これまでの標準仕様書では、設計と施工は分離されている事が前提として記述されてきました。しかし比較的小規模のインテリア工事では、設計施工一貫の場合も想定せざるを得ません。そこで本仕様書は、あくまでも設計・施工分離を大きな前提としつつも、設計施工一貫の場合でも利用できるように記述を、一般共通事項として加えています。そのため、設計施工一貫の場合においても、設計内容が確定した段階で、施工業者と発注者との間で設計図書の確認を交わしておく事を前提としています。さもないければ仕様書を作成する意义がありません。さらに便法として、設計監理を行う者については、発注者が承認した場合に限り、施工者側の人間であっても、設計内容の履行及び細部の決定や設計の変更についての発注者の意向確認等、本来の設計監理者と同様に、責任を以て監理に当たるべき事を記述しています。

構造躯体とインテリア

建築をスケルトンとインフィルに分ける考え方に立てば、インテリアでは原則として構造躯体であるスケルトンを対象としません。ここで構造躯体とは、建築基準法第二条五項「主要構造部」に規定がありますが、定義としてみるならば、基礎、桁、小屋組などが抜けており、不完全な記述としか言い様がありません。一方、建築基準法施行令第一条三項では、これを補足するように、「構造耐力上主要な部分」として、「基礎、基礎ぐい、壁、柱、小屋組、土台、斜材、床板、屋根版又は横架材（はり、けた、その他これらに類するものをいう。）で建築物の自重若しくは積載荷重、積雪、風圧、土圧若しくは水圧又は地震その他の振動若しくは衝撃を支えるものをいう」という記述があり、この記述の方が明確です。そこで本仕様書では、鉄筋コンクリート構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造の建物におけるインテリア工事では、この「構造耐力上主要な部分」は原則として対象としないこととしました。しかし木造建築のリフォームでは柱を外したり新設することも行われるので、木造の場合は些少な構造部分の変更はインテリア工事に含む事として記述しています。とくに木造軸組構造では造作と躯体の区分がしにくい場合もあるからです。

設備とインテリア

インテリアが室内装飾の時代には設備も専門業者に任せればよかったのですが、リフォームも扱うとなれば設

備を外すわけには行きません。最近のリフォームには水回り設備や照明の要素が重要となってきたからです。キッチンのインテリア化、バスユニットの取替え、照明の多様化等デザインと設備が切り離せなくなりました。またバリアフリーのための設備でも階段昇降機、段差解消機、リフト等の搬送機械設備も欠かせません。ホームエレベーターや簡易エレベーターも低価格傾向から、既存住宅への適用が増えるものと予想されます。また非住宅系の建物では、IT化がリフォームの重要な動機となっています。住宅でもIT化対応配線の必要性が増しています。このような理由からインテリアにとって、設備は構造部分よりも、より重要な要素となってきたといってもいい位です。

インテリアにおけるアート・サイン工事

デザイン要素の大きいインテリア工事では、室内の表面装飾や要所におかれるアートの装飾も重要なアイテムです。これらのデザインが細部まで決まっている場合や、既成品を利用する場合は問題ありませんが、コンセプトだけで細部のデザインが決まっていない場合や、デザインを工事費に含める場合も有り得ます。例えばホテルロビーのじゅうたんなどは新規の柄をデザインすることが通常といってよいでしょう。本仕様ではこのような場合を想定して、コンセプトだけで発注する場合や、デザインを含めて工事発注する場合も想定しています。大きな規模のインテリア計画ではサイン工事も同様な扱いを想定しています。また本仕様書はこれに伴う著作権問題にも触れております。

外構・緑化工事

外構・緑化はインテリアからはみ出した領域で、従来は造園やエクステリアデザインの分野でした。しかしながらアトリウムや部屋の要所に配置される観葉植物や中庭の設計などはインテリアの領域になり得ますし、バルコニーガーデン、玄関回りやショップフロントの外部デザインなどもインテリアの一環として扱っても不自然とは言えないでしょう。また移動可能なコンテナガーデンは季節によって屋外に出たり、室内に納まったりする。一種の動産です。このように考えれば外構・緑化のようなエクステリアの要素も、インテリアの仕様書の要素として用意しておきたいものです。

これからのインテリア工事

インテリア工事が室内装飾にとどまる限りは、建築工事の一部に組み込まれてしまい、本格的なリフォームに携わることは出来ません。キメの細かいインテリアのリフォームは、先に述べたように、発注者の意図を深く掘り下げて、空間をコーディネートし直す事ですから、大

風呂敷を広げたような本仕様書の目指すインテリア工事は、総合サービス産業となることを目指しているからなのです。どうかインテリア学会各位における本仕様書のご利用をお待ちしております。

本書の概要

本書は本文編と解説編の二分冊となっており、編集はインテリア工事標準仕様書検討委員会で、税込み定価は3,800円、出版社は?経済調査会となっています。

本文編は本文34章363 ページ、特記関連事項20ページ、引用JIS 規格20ページ、索引12ページとなっています。また解説編は図版込みで168ページとなっております。

最後に本文編の章立てをご紹介します。

- 1 章 一般共通事項
- 2 章 仮設工事
- 3 章 撤去工事
- 4 章 鉄筋コンクリート工事
- 5 章 鉄骨工事
- 6 章 木工事
- 7 章 石工事
- 8 章 レンガ・ブロック・ALC・プレキャストコンクリート等工事
- 9 章 左官工事
- 10章 防水・葺き屋根工事
- 11章 建具・ガラス工事
- 12章 タイル工事
- 13章 塗装工事
- 14章 あと施工アンカー類工事
- 15章 軽量鋼製下地工事
- 16章 金属工事
- 17章 プラスチック工事
- 18章 遮断材工事
- 19章 床仕上工事
- 20章 壁仕上工事
- 21章 天井仕上工事
- 22章 置き床ユニット工事
- 23章 可動間仕切・移動間仕切工事
- 24章 キッチン・洗面台工事
- 25章 サニタリーユニット工事
- 26章 カーテン・日除け・スクリーン工事
- 27章 家具工事
- 28章 アート・サイン工事
- 29章 外構・緑化工事

30章 物品移転・仮保管・清掃作業

31章 電気設備工事

32章 衛生設備工事

33章 換気・空調・冷暖房設備工事

34章 搬送機械設備工事

付章1 特記関連事項

付章2 引用 JIS規格

索引

以上



書籍の外観写真

■編集後記

犬山での大会記事を中心に、会報41号をお届け致します。
なお座長報告・講評は、年報にまとめて報告されます。

今41号から、「インテリアの行方」というコラムを新設致しました。会報記事が過去の報告ばかりだというご意見ご批判、そして今後に向けて考えなければならないことが沢山あるはずというご意見に、少しでも応えて話し合える場の糸口になればという思いから、広報・編集委員会で決めさせて戴きました。

また、その今後に向けての取り組みの一つである「インテリア工事標準仕様書」が、7年の準備を経て発刊されました。

そのほとんどを執筆された小原誠委員長から、概要の報告を戴きましたので、是非皆様も書店でお手に取ってみて下さい。

次号は年報として、春の総会前に発行致します。編集長は、小山の白石委員です。4月にはまた原稿依頼がありますので、何卒よろしく願い申し上げます。

発行が1月遅れてしまいました。心よりお詫び申し上げます。

(編集長：平井康之・九州大学大学院・
芸術工学研究院・人間環境システム部門)

——— * * * ———

41号の発行に、様々な手違い・不行き届きがありました。広報委員会を挙げて、お詫び申し上げます。直接、厳しいクレームを伝えて戴いた方もあり、今更ながら申し訳なく存じる次第です。言い訳は致しませんが、今回の反

省から尚更のこと、皆さまの様々なお力添えの必要性を痛感しました。

本学会も平成と共に歳を重ね、会員の年齢も上がっていて、とにかく小回りが利きません。こうした状況を踏まえつつ、皆さんと共に手を携えて、個人的に頑張っていくしか手段が見当たらないのが残念です。そこで、副会長始め多くの理事に参加して戴く学会運営を、もう一度再構築せねばなりません。

会報の編集も、どうやら電子的な手段でかなりの部分が出来るようになりました。この会報41号の編集も、後半はオープンシステムを採らせて戴きましたので、今後何卒ご協力のほど、お願い申し上げます。

(広報委員長：湯本長伯・九州大学大学院・
産学連携センター・デザイン総合部門)

■日本インテリア学会会報第41号(2008.3.6発行)

編集者：平井康之、湯本長伯(佐藤恭子)

発行者：高橋鷹志(日本インテリア学会長)

広報委員会：湯本長伯、平井康之、白石光昭、
渡辺秀俊

■事務局

日本インテリア学会

事務局長 西出 和彦

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

FAX: 03-5841-8515